KITA-NET NEWS 2020/03

きたネットニュース

●きたネットのネットワークに参加しませんか。 会員は以下の2種類です
1.正会員(市民環境活動団体・個人)年会費5,000円(1口)～総会における議決権を有します。
2-1賛助会員(企業・団体)年会費10,000円(1口)～総会における議決権は有りません。
2-2賛助会員(個人)年会費2,000円(1口)～総会における議決権は有りません。
●会員になると…各種連携事業の実施、広報協力、
会員間の交流、活動発表の場の提供、イベント参加費等の会員料金適用、
きたネットMLへの参加、各種環境情報の提供など。詳細は事務局にお問合わせください。

市民活動助成セミナー 2019

助成制度と新しい資金調達を1日で知るチャンス

2019/10/19 @北海道建設会館

今年はNPO法人エコネット近畿(大阪)、NPO法人地域の未来・志援センター(愛知)と連携して、「資金調達」の紹介など、新しいプログラムを組んだこともあり、最後の助成団体との個別相談会まで、大勢の参加者で賑わう1日になりました。

第1部は2つのテーマで開催。「資金調達の新しい流れ」では、ファンドレイジング協会北海道チャプターの牧 伸介さん、認定NPO法人D×P(ディーピー)今井 紀明さん、FAAVO北海道エリアオーナー 泉川 浩さんが、ファンドレイジングの基礎知識から、実際やってみての成功例・失敗例、そしてクラウドファンディングについてと、他では1日で聞くことができない内容を、質疑応答を交えて行いました。参加者からは、これからクラウドファンディングを使ってみたいので、相談の窓口や、進め方のノウハウなどがとても参考になったと大好評でした。

もうひとつのテーマは「初めての助成申請書の書き方講座」。一般財団法人セブン-イレブン記念財団の小野弘人さんが助成申請の際のポイントや申請の考え方を紹介した後、どのようなところに気をつけて活動内容を訴求していけばいいかを、参加者全員で審査し投票、最優秀を決めるワークショップをおこないました。こちらも参加者から、「数値化」「見える化」が大事なこと、またテクニックだけではなく、人の心を動かす伝え方を学ぶことができたという声をいただきました。

第2部は助成金制度説明を行いました。最初は、採択内容の「薪割り体験で持続的な森林保護・保全環境プログラムを提供」を題材に、助成財団の一般財団法人セブン-イレブン記念財団の小野弘人さんと、採択団体のNPO法人 ezorockの草野 竹史さんが採択の決め手や活用事例、経験談を、助成財団が採択団体の申請や事業のどのようなところを見るか、審査のポイントはどういったところかを、わかりやすく、なごやかに対談しました。

続いて助成制度説明会では、環境分野を支援する道外・道内の9つの団体が自団体の助成制度を説明し、その後の個別相談会で参加者は活動や資金について具体的に相談。参加者からは、助成対象外と思っていたが相談してみると対象だった、多くの団体と名刺交換ができ収穫が多い1日だった、と声が寄せられました。

【共催】一般財団法人セブン-イレブン記念財団

【助成制度説明団体】

一般財団法人セブン-イレブン記念財団／独立行政法人環境再生保全機構／公益財団法人河川財団／株式会社ラッシュジャパン／トヨタ自動車株式会社／一般財団法人前田一歩園財団／公益財団法人北海道新聞野生生物基金／認定NPO法人北海道NPOファンド／公益財団法人北海道環境財団(北海道e-水プロジェクト、ほっくー基金)

きたネットフォーラム2019

「人と野生生物の距離」開催しました

2019/12/1 @札幌エルプラザ 環境研修室ほか

北海道の環境中間支援組織として、市民活動を支援し一人でも多くの市民の方に北海道の環境活動を知り、参加や支援で関わってもらいたいと考えています。気候変動や異常気象など、自然環境の大きな変化が顕在化し、私たちの暮らしに被害を及ぼすようになってきています。外来生物や、新しい病原菌の活動の活性化も予想されます。一方、都市の拡大、地方の過疎化などの社会的要因から、人の暮らしと野生生物の住み分けが崩れ、野生生物との危険な接触、人獣共通感染症などへの危惧も高まってきています。2018年きたネットフォーラムではヒグマの問題を取り上げ、分科会で酪農学園大の学生から「野幌森林公園にヒグマが出たら」というテーマで発表がありました、それから数ヶ月後に現実になるとは…。

では、人間にとって危険な生物は駆除・排除すればよいのでしょうか？

2019年のきたネットフォーラムは「人と野生生物の距離」というテーマで、北海道に住むわたしたちが、自然の中、暮らしの中で出会う可能性がある、さまざまな危険について、そのリスク回避のために、何ができるかを専門家に学びました。

午前の基調講演(1)では、北海道の環境活動を長年にわたって推進、フィールドのリスクと向き合ってきたエコネットワークの小川巌さんに「この世に危険生物などいない。フィールドの危険を正しく怖がり、正しいリスクマネージメントを考えるために」、基調講演(2)ではヒグマ研究の第一人者間野勉さんに「変わりゆく人とクマとの距離、安全な共存をどうつくるか」というテーマでお話をいただきました。

午後は「我々の社会は野生生物のリスクとどう向き合うか」というテーマで、長谷川理さんのコーディネートで、主に人獣共通感染症について、講演・事例紹介・パネルディスカッションを行いました。福井大祐さんには「人と動物の関わりから生まれる新たな感染症リスクとその対応」を講演いただき、事例紹介ではエキノコックス、ダニなどの具体的な感染症について、獣医の立場で研究している方のお話がありました。

今回、一般に馴染みの少ない「人獣共通感染症」をメインに扱うということで、参加者は少なくなるかと考えていましたが、酪農学園大学、北海道大学、帯広畜産大学といった獣医、野生生物に関わる学生がたくさん参加してくれました。総勢130名。ジェンダー、年齢、分野のバランスもたいへん良く、最後の参加者交流会もたいへん活気のあるものとなりました。(理事　宮本尚)

【共催】一般財団法人セブン-イレブン記念財団

内容はきたネットTVのyoutubeチャンネルで録画配信を行っており、どなたでも見ることができます。新型コロナウイルス感染症の問題と通じる点も多いので、ぜひ、ご視聴ください。
きたネットTV http://kitanettv.blogspot.com/

きたネット会員

KITA-NET MEMBERS

いしかり森林ボランティア「クマゲラ」

北海道発祥の「木育」に力を入れた活動

森林に係わる普及啓発などを目的に市民、行政、企業と連携し石狩市厚田区小谷「千年の森」や石狩市高岡「五の沢の森」をフィールドに市民レベルでボランティア活動を行っています。季節毎に枝打ち間伐などの手入れ、キノシュ木育里親運動制度の募集や市内各小学校を対象とした森林教室も実施しています。

毎年、春と秋2回石狩市立緑苑台小学校5年生を対象に森林学習を開催しています。一昨年9月の台風、地震の影響で「五の沢の森」の学習コースは使用不可となり、急遽花川南防風林、野幌森林公園での実施となりました。森を体験する前に校内授業を設け、森林の仕組みや稀少植物等を紹介し森の大事さや楽しみ方を指導しています。

【森で楽しむイベント】　毎年2回講師をお招きし、春の山菜教室・秋のきのこ教室を開催し大変好評です。

【「木育」の事業】　①キノシュ木育里親運動は市民が家でドングリ(種)を苗木に育て里親になり森づくりに参加できる制度　②間伐材を利用した木工品づくりや「木育」の重要性などの会員向け勉強会も行っています。

【課題】　自然豊かな健全な森へを目標に続けていますが、会員の減少、高齢化による人手不足、地球温暖化等で結果は直ちについてきません。森を育てるには長い年月と労力が必要です。森林の支援活動は地道ですが、やり甲斐があり楽しいですよ。

[HP]https://blog.canpan.info/kumagera/

NPO法人 登別自然活動支援組織モモンガくらぶ

「ネイチャー」を活用してコミュニティを創ろう

私たちは、北海道の中でも比較的温かく、観光地として有名な登別温泉があり、地理的には海、山、国立公園に囲まれる、地域資源と自然が豊かな登別市で活動をしています。主な活動場所は市内に広がり、市街地から車で20分程の山の中、上流域に位置する社会教育施設「登別市ネイチャーセンターふぉれすと鉱山」、居住者の多い地区と隣接する市街地の緑地公園での子育て支援拠点「富岸子育てひろば」、まちの中にできた市民力が結集する場である「市民活動センターのぼりん」、これら3つが拠点です。

2002年に市民団体として誕生して以降、環境保全・地域づくりに向け、乳幼児から高齢者まですべての人を対象とした自然体験活動を提供することはもとより、子育て支援、エコツアーやNPO支援等による地域づくり活動、これらの活動を通じた人材の育成を事業の柱におき、人と人、人と自然をつなげるプラットフォームづくり、仕組みづくりを進めてきました。「ネイチャー」を活用してコミュニティを創ろう、その作り手の主体は利用者その人であり、多様な志向性を持っている活動や人が関わってほしい、そう願った結果が多様な事業へ発展しています。

モモンガくらぶの運営コンセプトは共通ながら、各拠点はそれぞれに特色をもち活動を展開しています。お近くにお立ち寄りの際は是非遊びにいらしてくださいね。

【電話】0143-85-2569
[HP]http://npo-momonga.org

きたネットチョイス

KITA-NET CHOISE

2020年度も開催します!

ラブアース・クリーンアップ in 北海道2020

私たちの北海道を私たちの手で、世界一きれいな場所にする、ごみ拾いのムーブメント。
北海道各地の、企業・団体・学校・施設等が行うごみ拾い活動をホームページで紹介しています。

参加期間／2020年4月1日(水)～11月30日(月)　活動場所／北海道内各地

■メインイベント「ごみ拾いビーチウォーク」(予定)

浜辺の漂着ごみ、レジャー後の放置ごみ…散乱しているごみを拾って、貴重な石狩の海岸を守る活動

日時／6月7日(日)午前　場所／石狩市石狩浜(札幌市中心部より送迎バス運行)
共催／NPO法人北海道海浜美化を進める会　協力／NPO法人ezorock

所属団体・
企業などでの取組みを
ぜひ登録してください!

第1回～第3回をご視聴いただけます。

円山ZOOラジオ

円山動物園サポートクラブの提供で、きたネットが企画し、ラジオカロスサッポロで「円山ZOOラジオ」を放送しました。
企画・パーソナリティーはMORINOKOチーム(イラストレーター&ライター新岡薫さん、きたネット事務局宮本尚)です。第1回～第3回の放送は、音声、動画を視聴していただくことができます。

[音声]youtube　https://bit.ly/2wUCa3e
[動画]facebook　https://www.facebook.com/maruyamazooradio/

News

きたネット主催・共催のイベントです
詳細はHP、きたネットfacebookで
おしらせします。

■6月20(土)／2020年度通常総会
■10月4日(日)／市民活動助成金セミナー 2020
■12月6日(日)／きたネットフォーラム2020